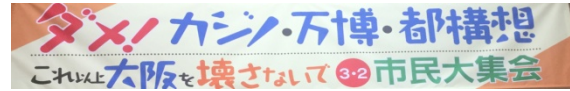


## 愛知万博と大阪「カジノ万博」誘致

写真の集会在3月2日にエル大阪であった。森裕之さんの「維新政治と大阪の危機」と題した基調講演、ミニコンサートや動画上映などがあった。これについてはレポートで紹介していきたい。

じつは、この集会で標題のテーマで講演をするつもりであった。そのためにパワーポイントを「パワー」を入れ準備していた。主催者の連絡「ミス」、私の確認「ミス」により、講演ではなく報告となった。それも最初は10分だったが、結局は5分の報告時間しかもらえなかった。べつの機会にじっくり講演させてほしいと訴えて、駆け足でマイクを渡した。BIE 視察団が来阪するなど、万博がクローズアップされているので、当日しゃべりたかったことを文章にまとめてみた。



38年ぶりの大阪暮らしから3ヶ月。暮らしには慣れてきたものの、「維新政治」なるものに戸惑い、怒りすら覚えることが多い。奇々怪々な「大阪都」構想＝大阪市潰し、市営地下鉄の民営化、大阪市大と大阪府大の統合・リストラ、「カジノ万博」などだ。ここでは「カジノ万博」誘致騒ぎについて、2005年の愛知万博の経験を踏まえて、私なりの感想と問題を提起してみたい。

国際博覧会、略して万博とは何か。どんな歴史をたどってきたのか。社会学者の吉見俊哉『博覧会の政治学』『万博幻想-戦後政治の呪縛』などに詳しい。万博はひと言でいえば、国家的大規模イベントである。イベントは「非日常性」「非日常的な空間」などであり、長い歴史を経て現在に至っている。わが国で有名なのが1970年の大阪万博である。高度成長の最後を飾る国家的なお祭りであり、日本中を熱狂させた。当時はまだ「非日常的な空間」や娯楽に乏しく、海外に憧れを感じるような時代であった。

そして21世紀に入り、最初の万博、愛知万博が2005年に開催された。当初の構想と現実には大きなギャップがあり、万博のような国家プロジェクトがこれほど迷走を続けたのも珍しい。愛知万博の構想は、バブル全盛の1988年10月に突如、愛知県から発表された。名古屋が誘致に失敗したオリンピックが、ソウルで華々しく開催された頃だ。会場候補地は名古屋市の中心部から東へ20キロの瀬戸市南東部とされ、なりふりかまわず誘致活動が進められる。1997年6月13日未明、ギャンブルで有名なモナコで行われたBIE（博覧会国際事務局）総会の場で、2005年国際博覧会の候補地が日本・愛知に決まった。トヨタの力が大きかったという。

誘致フィーバーから一転して、現実的な「そろばん勘定」になると、地元経済界から

ホンネの発言が飛び出し、資金負担をめぐり混乱が続く。財政面以上に混乱したのは、会場計画である。愛知県に大規模なニュータウンを新住宅市街地開発事業、「新住事業」でつくる計画があり、それと連動させて万博会場の基盤整備を推進しようとした。万博は新住事業と「心中」するのかと、私も講演などで批判したものだ。この万博跡地開発をBIEは強く批判し、会場計画は二転三転しながら大幅に見直される。

愛知万博をずっとフォローしてきた一人として、まず感じるのは、常識的にみて大阪での万博開催はあり得ない、「ありえへん」ということだ。なぜ2025年に日本、大阪で再び万博なのか、そもそも明確でないし、十分な議論もなされていない。迷走を続けたとはいえ、愛知万博はかなり時間をかけて議論され、会場計画も国内外の批判を受けて大幅に見直された。「環境万博」という看板を掲げ、それなりに市民参加を重視した。

一方、大阪万博構想は会場計画については、明確な狙いが見てとれる。どうしてIRという名のカジノ誘致と万博会場を連動させるのか。夢洲を万博会場にするのは、アクセスなどをカジノ業者に負担させたいからだ。ただでさえ厳しい財政事情を考えると、一見すると夢洲ならぬ「夢話」にみえる。

この点では、愛知万博が新住事業によるニュータウン開発に万博を利用しようとしたのと似ている。大阪は何と言っても、国民から批判の声が強いカジノである。大阪万博はカジノと心中するのだろうか。こんな「カジノ万博」が、BIE総会で「そうかい」と決まるは思えないのだが。BIEのおひぎ元のフランス・パリが立候補を取り下げる時代だ。そんななかで巨額の誘致費用を使って、BIE関係者を「おもてなし」する大阪に、ひょっとして決まるかもしれないが。

愛知万博はBIEで開催地が決まった後の方が、むしろ揺れ動いた。開催の是非を問う県民投票運動が広がり、知事選でも万博反対の旗を掲げた候補が善戦した。会場計画の見直しでは、市民が積極的に討論に参加して大きな役割を果たした。環境アセスメントに意見するなど、とりわけ環境面の活動は特筆される。とにかく万博誘致をめぐり世論が盛り上がり、それが万博開催後にもつながっていった。

大阪ではどうか。もう一つよく分からないが、万博賛成、反対ともに盛り上がり欠け、市民も何か他人事さの感じだ。「大阪都構想」では東京、そして「カジノ万博」では愛知に学ぶことも大切ではないか。そのためにも、大阪市民の一人として、愛知万博の構想と現実についても、どんどん発信していきたい。

(2018年3月6日)